

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	Academic Written English I		
英文授業科目名	Academic Written English I		
開講年度	2006年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 知能機械工学科		
担当教官名	松原 好次		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
	<a href="http://dictionary.cambridge.org">dictionary.cambridge.org</a> <a href="http://owl.English.purdue.edu">owl.English.purdue.edu</a> <a href="http://www.wc.iup.edu/resources/index.htm">www.wc.iup.edu/resources/index.htm</a>

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>(a) 主題：          外国語としての英語を使って自己表現するうえで、written English（書きことばとしての英語）は年々その重要性を増してきている。Eメールを使ったインフォーマルなコミュニケーションは無論のこと、専門分野において調査・研究した内容を発表する際にも、身につけておくべき素養であると言っても過言ではない。Academic Written English Iは、学生1人ひとりが大学1年当初から written English の重要性を認識し、論理的にまとめ明確なことばで表現するという「深いレベルでのコミュニケーション」を目指すために設けられた科目である。「書く」という作業を通して、批判的思考(critical thinking：第3者の立場で一歩引き下がって行なう思考)を養うことが、この科目のテーマである。</p> <p>(b) 達成目標：          基礎レベルの academic written English に使用される英語を読んで理解するとともに、書けるようになることを目標とする。パラグラフ・ライティングやエッセイ・ライティングの「理論」を学ぶことと並行して、各自が英語でパラグラフやエッセイを書く「実践」にも重きを置く。さらに、書いた英文を自らの力で推敲する力の養成も目標の1つである。</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>なし</p>
--

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし

### 【教科書等】

教科書：上村妙子・大井恭子「英語論文・レポートの書き方」（研究社）。

### 【授業内容とその進め方】

#### (a) 授業内容：

第1回 アカデミック・ライティングの重要性について—深いレベルでのコミュニケーション

第2回 英語のパラグラフとエッセイの特徴

第3回～第15回 ライティングの実践—アカデミックな英文を書くためのコツ

\*以下の(1)と(2)を有機的に組み合わせて、academic written Englishの基礎を固める。

(1)機能表現・つなぎ表現を学びながら、実際にパラグラフやエッセイを書く。具体的には、時間的順序、空間配列、賛成・反対、意見と理由、方法、例証、分類、原因・結果、比較・対照などに関する表現を学ぶ。

(2)推敲の仕方を学ぶ。具体的には、定冠詞と不定冠詞の使い分け、動詞の特性、コロンとセミコロンの使い分け、結束性と首尾一貫性、類義語による置き換えなどに注意して、自分の書いた英文をブラッシュアップする。

第16回 期末試験

#### (b)授業の進め方：

パラグラフ・ライティングとエッセイ・ライティングの全体像把握に力点を置くと同時に、「書く」技法のディテールもおろそかにせず授業を進める。特に、日本語を母語とする学習者が陥りやすい間違いを指摘することによって、学生1人ひとりが自らの力で推敲する習慣を養う。具体的には以下のとおり。

(1)音読を含めた「読む」作業のなかで、基本的な機能表現・つなぎ表現を確認する。

(2)上記表現を利用して、センテンス・パラグラフ・エッセイを「書く」。授業終了時に提出することを原則にするが、次の授業時までの課題とする場合もある。

(3)よくある間違いを指摘する。その際、「文単位」の間違い(語法、文法、句読法など)だけでなく、「文を超えた単位」の間違い(首尾一貫性やパラレル構造など)にも注意を向ける。

(4)書いた英文を発表する作業のなかで、「話す・聞く」の基礎作りをする。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：

演習課題の評価点(70%) + 期末試験の評価点(30%)

(b)評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- ・毎授業時の演習課題で、ポイントに沿った英文(センテンス・パラグラフ・エッセイ)が書けていること。
- ・期末試験で、本科目の目標(基礎的な academic written English)に達する英文が書けていること。

### 【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 12:45~13:30

### 【学生へのメッセージ】

英語のライティングは確かに難しいのですが、パラグラフやエッセイの構成を把握し、機能表現・つなぎ表現をうまく利用すれば、少しずつ書けるようになります。自分の考えや意見を英文で書くことに挑戦してください。

### 【その他】